

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション**
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集



マテリアリティ

イノベーション

ガバナンス

ヤクルトグループは、研究開発については、取締役である研究開発本部長を委員長とする研究開発技術委員会において、新商品については、取締役である食品事業本部長を委員長とするマーケティング委員会において、審議を行っています。これら委員会の審議事項のうち、経営政策に関する重要事項については、取締役や監査役から構成される経営政策審議会および執行役員会・取締役会に諮る手順としています。

戦略

ヤクルトグループが持続的成長を続けるために、これまで培ってきた生命科学の追究を基盤とした商品開発のさらなる推進や、新たな価値を提供するサービスの創出が必要不可欠だと認識しています。「Yakult(ヤクルト)1000」(2019年発売)、「Y1000」(2021年発売)は、「ストレス社会」と言われる現代の社会課題の解決に貢献し、多くのお客さまからご支持をいただきました。今後もステークホルダーの声を聴きながら、社会課題の解決に貢献するイノベーションを生み出す体制やしきみづくりを今まで以上に充実させ、ヘルスケアカンパニーへの進化につなげていきます。

リスク

- 多様化する消費者ニーズへの対応不足による業績への影響
- 知財の侵害、試験データ等の漏えい、新規感染症、自然災害による開発遅延

機会

- 安全性の高い商品開発による競争力向上
- 健康志向の高まりに対応した商品開発による競争力向上
- 共同研究推進によるイノベーション創出

リスク管理

持続的成長のためには、これまで培ってきた生命科学の追究を基盤とした商品開発のさらなる推進や、新たな価値を提供するサービスの創出が必要不可欠です。ヤクルトグループの事業における重要な課題として企業経営や財務に影響を与えるものと認識し、マテリアリティの一つとして特定しています。

指標と目標

行動目標	実績
<ul style="list-style-type: none"> ● 社会課題解決に貢献できる研究の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ● お客さまのニーズに対応した機能的ベネフィットが備わった次の商品を導入 <ul style="list-style-type: none"> ・「ヤクルト400W」(機能性表示食品/2020年発売)をリニューアル発売 ● 伴侶動物(ペット)関連市場への参入および犬用サプリメントの発売 <ul style="list-style-type: none"> ・「MediSuppli(メディサプリ) ガラクトオリゴ糖」 ・「MediSuppli+(メディサプリ プラス)」シリーズ

● 課題と対策

社会情勢の変化は、人々の健康に関する概念や意識に大きな影響を与え、新たな社会課題を生み出します。ヤクルトは、健康を掲げる企業として、この変化に対応し続け、新たな課題の解決に貢献することが、使命であると同時に課題であると認識しています。

昨今の健康にかかわる領域の広がりに対応するため、ヤクルトが今まで培ってきたプロバイオティクス研究を核として、ヘルスケア領域に事業を拡大します。イノベーションを実現するため、2021年から2024年度までの間に約1,000億円の領域拡大に向けた投資を行うことで、世界の人々のニーズに応え、「新しい価値」の創造につながる商品やサービスを提供するヘルスケアカンパニーへと進化していきます。

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション**
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

担当役員メッセージ



取締役 専務執行役員
研究開発本部長

平野 宏一

● イノベーションから始まったヤクルト

ヤクルトの歴史は「イノベーション」によって築かれています。ヤクルトの創始者代田 稔は、当時の日本で、衛生状態の悪さから感染症で命を落とす子どもたちが数多くいたことに心を痛み、病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」を志し微生物研究の道を進みました。こうして生まれたのが「乳酸菌 シロタ株」であり、乳酸菌飲料として商品化したのが「ヤクルト」なのです。当時は「予防医学」や「乳酸菌摂取の習慣化」という考え方はなく、社会に大きな変化をもたらしました。革新的な研究と技術によって生み出された「ヤクルト」こそ、まさに「イノベーション」を体現した商品であると考えます。

● 生活者のニーズに応えるイノベーション

「ヤクルト」が誕生してから約90年。時代とともに生活スタイルや価値観が変化したり、ヤクルトが展開する国・地域が拡大したりすることで、お客さまのニーズは多様化しています。そうした多様なニーズを捉え、「ヤクルトならではの価値」をお届けすることが私たちに求められています。そして、その「ヤクルトならではの価値」をつくり出すには、イノベーションが不可欠です。例えば、「Yakult(ヤクルト)1000」や「Y1000」という商品は、「乳酸菌 シロタ株」を高密度にすることで、現代社会の健康課題であるストレスや睡眠に対してアプローチするという、新しい価値を提供しました。また2023年には、高まるペットへの家族意識を捉え、株式会社ジャパンペットコミュニケーションズと資本業務提携し、ヤクルト独自の素材を提供した協働企画商品として犬用サプリメントを発売しました。常に変化を続ける市場環境に適応し、持続的に成長するためには、常に新しいアイデアや技術を探求し、次世代の製品やサービスを提供しなければなりません。それが結果としてお客さまのニーズに応えることや、課題を解決することにつながると思っています。

また、イノベーションは製品やサービスの開発だけにはとどまりません。「ヤクルトレディ」として広く認知される宅配システムもまた、女性の社会進出がまだ盛んではなかった当時において、革新的な販売システムだったと考えます。最近では、ヤクルトレディによる商品のお届けをインターネット上で申し込むことができる「ヤクルト届けてネット」や、離れている家族へのお届けを注文できる「家族に届けてネット」など、販売システムも時代の変化に伴い進化を続けています。

● イノベーションを加速させる企業風土の醸成

私たちがグローバルでさらなる成長を果たすためにも、イノベーションは欠かせません。そしてそのイノベーションは社員一人ひとりの創造的な発想から生み出されると考えます。そこで2023年度は、新たな価値を創出するイノベーション思考を備える人材育成の機会として、「イノベーション思考力習得研修」を実施しました。さまざまな部署に所属する社員同士で意見交換することにより、部署固有の考え方や、受講者個々の固定観念から脱却し、全社最適化で考えることができるプログラムとなっています。これからもこのような機会を多くの社員に提供し、社員から出てくる自由なアイデアをイノベーションの原動力にしていきたいと思います。

また、自社だけにとどまらず、さまざまな社会課題の解決にも取り組みます。そのためにも、社外のステークホルダーとも積極的に連携し、社外の研究機関などと相互支援し研究しています。異なる視点と専門知識を持つパートナーと協力することで、イノベーションを起こし、社会課題の解決にもつながる新しいビジネスモデルを創出します。

● 「価値創造」とは、人に寄り添うこと

イノベーションはヤクルトのコーポレートスローガンである「人も地球も健康に」を実現するための重要な手段です。これからも、生活者一人ひとりに寄り添い、ニーズと課題を理解して、それらに対応するソリューションを提案することで、世界中の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション**
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

イノベーション創出への考え方

● 将来のありたい姿とイノベーション

ヤクルトグループは、世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化を目指し、生命科学の追究を基盤として、社会課題の解決に貢献するイノベーションを生み出すことに努めています。

● 研究開発の取り組み

ヤクルトグループは、世界の人々の健康に寄与する商品やサービスを創出するための研究開発に日々取り組んでいます。研究開発は、プロバイオティクス(L. カゼイ・シロタ株、B. ブレーベ・ヤクルト株等)にとどまらず、予防医学や健腸長寿に貢献するヘルスケア事業領域にまで及び、その成果を食品・化粧品・メディカルバイオーム[®]**製品に応用しています。

また、さまざまな医療機関との共同研究や、ネイチャーポートフォリオとの研究助成プログラム等、外部機関との共同による予防医学や健腸長寿を実現するための研究開発にも、積極的に取り組んでいます。

※メディカルバイオーム[®]: Medical(医療)とMicrobiome(細菌叢)を合わせた造語(商標登録済み)

イノベーションを生み出す体制

● 中央研究所

中央研究所は、「代田イズム」を基盤にさまざまな研究に取り組み、その成果を予防医学や健康維持・増進のための製品へと応用してきました。2016年4月には、コア技術の進化や連携を図るための最先端の設備・組織・環境を整備した研究所が完成し、幅広い研究活動を展開して先進的かつ独創的な研究成果を生み出しています。今後も世界の人々の健康のために、腸内フローラやプロバイオティクスのコア技術をそれぞれの領域に展開していきます。

株式会社ヤクルト本社 中央研究所

設立 1955年4月
(京都にて代田研究所としてスタート)

所在地 東京都国立市泉五丁目11番地
所員数 約300人

【主な研究内容・分野】

人の健康維持・増進に役立つ食品・化粧品・メディカルバイオーム[®]製品の素材開発と利用の研究を行う。微生物学・栄養学・生理学・免疫学・生化学・生物工程学・発酵工学・薬学・分析化学・疫学・情報科学が研究を支える。



次世代育成：中高生向けオンライン企業訪問プログラム

中学生、高校生のキャリア教育を推進するために、オンラインによる企業訪問プログラムを実施しています。本プログラムでは、研究員という職業について理解を深め、仕事を通じた社会貢献に興味をもっていただく機会を提供しています。2023年度は11校877人の生徒が受講し、アンケートでは9割以上の受講者が「大変満足」「満足」と回答されました。

● 非営利法人ヤクルト本社ヨーロッパ研究所

当社は2005年に「非営利法人ヤクルト本社ヨーロッパ研究所」をベルギー・アントワープ市に設立しました。これまでに、欧州の人々を対象に、現地で生産された乳酸菌飲料を用いた飲用試験を行い、L. カゼイ・シロタ株が生きて腸にとどくこと、および便性改善効果があることを確認しました。また、その他の基礎的な研究として、母親の腸管内ビフィズス菌が新生児に受け継がれること、特定のビフィズス菌が乳幼児から幼児期の間、腸内に長期定着していることを明らかにしました。

菌の科学性の研究

● 腸内フローラ研究

私たちのおなかの中には、およそ1,000種類、約100兆個もの腸内細菌がすみついていて、特に小腸下部から大腸にかけては多種多様な腸内細菌が生息しています。それらは植物の群れにたとえ「腸内フローラ(腸内細菌叢)」と呼ばれています。腸内フローラは、腸の健康や免疫機能の発達維持だけでなく、生活習慣病やストレス等とも関連があることが分かってきました。中央研究所では、予防医学の見地から、腸内フローラの研究を活動の柱としています。最新の遺伝子解析技術や腸内細菌分離技術など、さまざまな手法を用いて解析を行い、腸内細菌の種類や構成と疾病とのかわり、宿主の健康に及ぼす影響などを追究しています。

● プロバイオティクス研究

中央研究所では、代田 稔が発見したL. カゼイ・シロタ株をはじめ、B. ブレーベ・ヤクルト株等を使ったプロバイオティクス分野の研究で数多くの成果を生み出しています。



乳酸菌やビフィズス菌等の微生物コレクション

Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

ヘルスケアカンパニーへの進化(健康意識の高まりを受けた商品開発)

近年、海外では、生活習慣病や肥満の深刻化を背景に、国民の健康を守るには、基準値以上の糖類を含む食品に砂糖税として課税する国が増えています。メキシコでは基準値以上の糖類を含む食品に警告アイコン表示を義務づけています。マレーシアおよびシンガポールでは糖類が「ヘルシアチョイス制度」で定める基準値以下の食品にシンボルマークの表示が許可され、その表示がないと学校等での販売や広告宣伝の規制を受けます。今後は、さらに商品開発およびパッケージへの表示が求められることが予想され、健康志向の高まりを受けて糖類の摂取を気にする消費者が増えていることへの対応として、ヤクルトグループでは各国・地域の食品に関する法規制や消費者ニーズに対応した低糖タイプ商品の開発・導入を行っています。

また、現代は多くの人々がストレスにさらされており、メンタルヘルスケアの重要度が高まっています。このような状況を受け、当社では、腸内フローラやプロバイオティクスの研究の広がりから得られたストレス、睡眠に対する成果をもとにした新しい健康価値を提供する商品の開発・導入を行っており、2019年10月には当社初となる機能性表示食品「Yakult (ヤクルト) 1000」を、さらに2021年10月に同様の機能の店頭主体商品「Y1000」を発売しました。

● 日本での取り組み

甘さやカロリー(熱量)がひかえめなタイプ(「ヤクルト400 LT」「Newヤクルトカロリーハーフ」等)の販売比率が高まっていることを踏まえ、「Yakult(ヤクルト)1000」「Y1000」「ヤクルト400 W」では、1ml当たりの熱量を「ヤクルト400」より低く抑えています。今後、より糖類摂取量への関心が高まると予想されることから、海外の糖類規制に対応するために開発した技術を国内商品にも応用していきます。

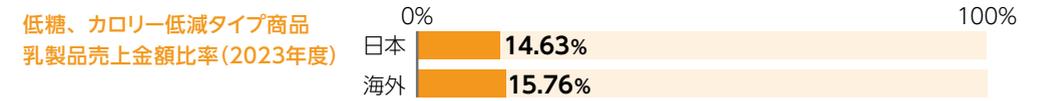
また、人々の健康意識とともに、健康に関するソリューションの多様化が進む中で、一人ひとりに合った新しい価値を提供できるように、健康イメージのある植物素材をベースに当社のシーズを付与した商品や医療現場での治療に役立つ新たなカテゴリーの商品等の検討を進めています。

● 低糖、カロリー低減タイプ商品の販売

日本や海外において健康意識が高まる中、お客さまのニーズに応えるため、さまざまな低糖、カロリー低減タイプ商品を販売しています。

海外では、事業を展開する39の国・地域のうち、27の国・地域で低糖、カロリー低減タイプ商品の販売を行っており、健康課題の解決に配慮しながら、お客さまの健康ニーズに対応しています。

今後もお客さまのヘルスケアに寄与する商品の開発、販売を通じて、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献していきます。



資源の有効活用

容器包装の開発設計においては、資源循環しやすい素材への転換を目指した技術開発をはじめ、環境配慮型素材等の採用可能性や、既存商品における省資源化(リデュース)についても継続的に検討を進めています。

工場では製造・生産プロセスにおいて、電力や水の削減につながる作業方法の見直しや、設備機器の更新に合わせた高効率機器の導入を図る等、省エネルギーおよび省資源への取り組みを継続的に行っています。

関連情報 [P.37 プラスチック容器包装](#) [P.42 水](#) [P.46 資源循環](#)

共同研究・企業間連携

● 共同研究の広がり

社会課題を解決するイノベーションを促進するために、外部の研究機関との共同研究に取り組んでおり、パートナーシップでの目標達成を目指しています。

● JAXAとの共同研究

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)との共同研究では、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在する宇宙飛行士を対象に、プロバイオティクス(L.カゼイ・シロタ株)の継続摂取が腸内環境および免疫機能に及ぼす効果の科学的検証を行っています。宇宙実験の実施に先立ち、L.カゼイ・シロタ株を宇宙環境で長期保管したところ、プロバイオティクスとしての機能が維持されることを確認しました。

● 国立長寿医療研究センターとの共同研究

国立長寿医療研究センターが2023年に開始した長期縦断疫学研究「東浦研究」に参画し、乳酸菌摂取が高齢者の脳やからだの健康に果たす役割を解明することを目的とした共同研究を行っています。この共同研究は2027年度末までの期間を予定しており、その中で得られた情報は予防医学に基づく乳酸菌摂取の生理的意義の解明に役立てられます。



Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション**
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

● **ネイチャーポートフォリオと研究助成プログラムを実施**

人の健康に対する腸内フローラの影響について基礎から臨床の研究を進展させることを目的に、総合科学雑誌『ネイチャー』を発行するネイチャーポートフォリオと共同で研究助成プログラム“The Global Grants for Gut Health”を2018年から行っています。

● **企業間連携による商品開発**

● **植物性素材の活用に向けて**

ヤクルト本社は、レモン・豆乳など植物性素材のリソースを有すポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社(以下、ポッカサッポロ)と業務提携契約を締結し、協働で開発を進めてきました。その結果、ポッカサッポロのレモン素材と当社の乳酸菌技術を生かした商品として、「ソファール レモン」(2023年1月発売)、ポッカサッポロからは「発酵果実 みかん&レモン」(2023年6月発売)を発売しました。

● **伴侶動物(ペット)向け商品の展開**

コーポレートスローガン「人も地球も健康に」の実現に向け、人だけでなく、動植物や環境に対しても、等しく健康であることが重要と考えます。そこで、伴侶動物(ペット)関連市場に参入し、動物の健康の維持と向上に貢献したいと考え、株式会社ジャパンペットコミュニケーションズと資本業務提携契約を締結し、協働企画商品として、ヤクルト独自のガラクトオリゴ糖を使用した犬用サプリメント「MediSuppli(メディサプリ)ガラクトオリゴ糖」および「MediSuppli+(メディサプリ プラス)」シリーズの販売を2023年9月に開始しました。

倫理遵守の徹底

中央研究所では、「安全・安心」に関する研究や保証を専門に行う部門を置き、自社が設ける厳しい基準・規格により、信頼性の高い研究データの取得に努めています。「安全性研究所」では、国が定める基準・規格に準拠して、素材・製品の安全性評価を行っています。そして他の組織から独立した「信頼性保証室」が、第三者的視点で研究活動や研究データの監査を行っています。研究員に対しては、研究倫理研修(情報セキュリティ、法令遵守等)を積極的に実施しています。研究開発において動物実験が必要とされる場合は、法律および関連機関の指針に従い、動物福祉に配慮した社内規程に則って取り組んでいます。また、国際的な第三者評価機関の定期的な立ち入り調査を受け、認証を継続して取得しています。

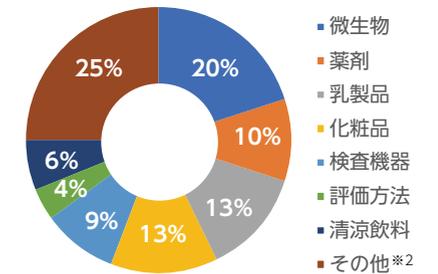
なお、法的義務または各国の関係当局の指導がある場合を除き、食品および化粧品研究における動物実験は行っていません。

知的財産・無形資産の投資・活用

● **知的財産権の取得・活用**

ヤクルトグループは、研究開発によって生み出された新製品・新技術に関する知的財産権(特許権、意匠権、商標権等)の取得を国内外で積極的に推進し、自社の技術等を他社から守るとともに、これらの権利を適正に活用することによって、自社のブランド価値の維持・向上に努めています。プロバイオティクスから医薬品・化粧品関連まで、国内外で特許を保有しています(2024年3月末現在の国内外保有特許件数:約1,000件)。

領域ごとの特許権の保有割合(国内)^{※1}



※1 2024年5月現在、権利継続中・審査中の出願数を基に集計。

※2 その他の内訳:包装、容器、治具、検査装置、バイオテクノロジー(細胞培養、タンパク質合成、遺伝子ほか)、教育資材等。

● **知財戦略の最適化**

ヤクルトグループでは、事業活動を行うすべての国・地域の知的財産権を本社が一元管理することにより、グループ全体として最適な知財戦略を構築しています。知財戦略は、開発部知的財産課が中心となって検討・策定し、事業部門とともにその実践を推進しています。

本社一元管理のもと、世界各国・地域で商標「Yakult」等について権利を取得し、自社のブランド価値の維持・向上に努めています。また、トレードマークであるヤクルト容器の形状について、日本、米国等で立体商標として権利化しています。これらの権利は、海外で急増する模倣品への対策にも役立っています。さらに模倣品対策については、外部専門家と連携して監視システムを強化しています。



日本商標登録5384525号(左)、米国商標登録3467768号(右)ヤクルト容器の形状について、容器形状のみで立体商標として登録されています。

商標「Yakult」等について権利を取得している国数および当該商標の一例

世界約120の国・地域



Contents

- 02 サステナビリティレポート2024について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 トップコミットメント
- 08 ヤクルトのはじまり
- 10 ヤクルトのサステナビリティ**
- 19 環境活動報告**
- 21 環境マネジメント
- 27 気候変動
- 37 プラスチック容器包装
- 42 水
- 46 資源循環
- 47 生物多様性
- 50 社会活動報告**
- 51 イノベーション**
- 57 地域社会との共生
- 64 サプライチェーンマネジメント
- 75 人的資本
- 75 人材マネジメント
- 78 人材育成
- 80 健康経営
- 83 ダイバーシティ&インクルージョン
- 85 ワークライフバランス
- 86 労働安全衛生
- 88 ヤクルトレディに対する取り組み
- 89 人権
- 96 製品安全
- 99 顧客満足
- 104 ガバナンス報告**
- 104 コーポレートガバナンス
- 111 リスクマネジメント
- 113 コンプライアンス
- 116 第三者意見
- 117 外部からの評価
- 118 ESGデータ集

● ヤクルトレディ・ヤクルトビューティを通じたお客さまとのコミュニケーションと信頼関係

ヤクルトグループが独自に築き上げてきたヤクルトレディ・ヤクルトビューティによるお届けは、食品および化粧品だけでなく、健康情報をお伝えすることによってお客さまの声を聴き、信頼を得ることに役立っています。こうしたお客さまとのコミュニケーションのしくみは、日本を含む、世界13の国や地域に展開され、このしくみに裏付けられたお客さまとの信頼関係は、ヤクルトグループの重要な資産になっています。

イノベーション研修の実施

長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」では、「世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化」を目指す姿とし、これまで培ってきた生命科学の追究を基盤とした商品開発のさらなる推進や、新たな価値を提供するサービスの創出を目指しています。

そこで、新たな価値を創出するイノベーション思考を備える人材を育成するために、2023年度に新たに「イノベーション思考力習得研修」を実施しました。当研修では、イノベーションに必要な能力と知識の習得を目標とし、社員112名が受講しました。講義のみならず、受講者個々が固定観念から脱却して顧客のニーズを追求することを目標にグループワークを実施し、全5回（計5日間）の研修の最終回には、成果発表テーマ「時代の変化に応じてヤクルトが社会に提供するべき商品・サービスを提案する」に基づき、グループごとに提案内容を発表しました。今後も、当研修での人材育成をとおして、イノベーション思考の習得、さらには新たな価値の創出につなげたいと考えます。

担当者コメント



人材開発センター担当課長

駒形 裕介

新規研修として企画運営し、研修の目的達成だけでなく、当社に必要なイノベーションとは何かについて、受講者一人ひとりが思いをはせることにつながりました。同時に、グループワークや成果発表に取り組む姿勢を見て、イノベーションの種となる多くのアイデアを潜在的に持ち合わせていることが感じられました。

イノベーション思考の習得と体現は、今回の受講対象社員のみならず、全社員に求められているものであります。当社の持続的成長を目指して、社員一人ひとりがイノベーションマインドを備え、チャレンジできる風土づくりを醸成するべく、今後も継続的かつ発展的に研修を実施していきたいと考えます。